

山麓探偵団通信

5月号

おそい春が、やってきました！
四月の探偵団は、探偵団の原点を地でいくような、きよろきよろ、どれどれ、なにに、へえーが目白押しの、にぎやかな道中。

名もない雑木林に生きる植物や昆虫、小動物たちの、必死に生きるのびる知恵や工夫を目の当たりにして、「みんな、一生懸命に生きてる」を、頭脳以外のなにかで、しっかりと受けとめた一日でした。

▽参加者の感想文 (その1)

最近、地殻変動のためか温暖化のためか鳥のカラ類が減ってきたという話題になりました。

そんな中、あつという間に五十カラになってしまわれたという伊藤さんを団長に、六十カラの団員八名と、春を見つけに富士山麓に行ってきました。

最初に到着した富士霊園。今年春の訪れが遅かったせいかなソメイヨシノ、しだれ桜、富士桜、芝桜、そこに姥桜(???)とポケ(???)が花を添え、百花繚乱。言葉では言い尽くせない美しさでした。

その後、いよいよ小山(おやま)の雑木林を散策。今回、参加二回

目の私は、用心のためウォーキングポールまで持参しましたが、終わってみると、四時間の間に歩数2500歩。距離にすると1・5km弱でした。
ところがたった2500歩の中に、普段見過ごしている多くの自然があることにビックリしました。



< 楠蚕 (クマダ) の「すかし俵」 >

十歩歩いては花を見て、虫を捕まえ、音を聞き、最初はこんなにゆっくり歩いて目的地に着くのかしら・と危惧しましたが、お話を聞いているうちに何も知らない私もグングン自然界の神秘にひきつけられて、童心に返りました。

最後のサプライズは、倒木に生えた野生の椎茸5〜6個。人工栽培しか知らない私は、何故野生?と不思議がついていると“椎の木に生えれば椎茸。不思議ではないですよ!”と教えてくださり納得でした。

というわけで、今回は特に目的

地はありませんでしたが、鹿の角や椎茸、そして蜘蛛、かえる、すかし俵や春の花を見つけ、四時間も足りない楽しい探偵団でした。(C・M)

▽ (その2)

初参加者の私。富士山麓とは何年ぶりの対面だろうか。何ともいえない味と香りのする山ウドの魅力にとり憑かれ、甲府から富士山麓に、十年近く通ったことがあります。

当日の参加者は八名。東京、神奈川から約半数。歩き始めてすぐに、団長が道路脇の松の小枝を取り除くと、少し小ぶりのシュンラン(春蘭)が現れました。こども頃、田舎の山の中でいっぱい見られたシュンラン。新鮮でした。花筏(はないかだ)の可愛い小さな新葉も、葉の真ん中にしっかりと丸い粒をすでに付けています。

コモリ蜘蛛、オナガ蜘蛛の擬態など、私には未知の蜘蛛の世界も垣間見ることが出来ました。

貴重な天然の山繭や、すかし俵の何と多いことか、驚きでした。団長とOさん二人の、動植物について、深く豊かな知識のおかげで、言葉では言い表せない至福の里歩きでした。

衰えかけている頭脳への、心地よい刺激にひたりながらの帰路でした。(T・I)

◆ 五月の探偵団活動のご案内

〈新緑を浴びて一日を歩こう〉

風薫る五月。新緑の山麓をゆっくり歩けば、きっと楽しい発見があるかもしれません・・・
団長は、映像カメラマンの伊藤浩美さんにお願ひしています。

・月 日 五月十九日(土)

・集合 午前十時に「なるさわ道の駅」

・参加費 二日ガイド代、保険代含め 2300円

・持ち物 昼食・敷物・雨具・マイカップ・任意でポケ

ット凶鑑、双眼鏡など

*申し込み・問い合わせは三日前までに、電話かメールでお願いします。

~~~~~

### ◆ 今後の予定

◎六月の野営一泊は、戸高雅史さんを団長に、六月三十日〜七月一日の一泊二日です。

◎七月は、昆虫(特にセミ)の林正美先生を団長に、七月二十一日(土)を予定しております。

\*参加ご希望の方は、今のうちに日程調節をお願いいたします。

発行 山麓探偵団 事務局

山梨県山中湖村平野一六九八

電話 〇五五五・六五・七〇二三